

第三者評価結果

事業所名：社会福祉法人 正道会 溝口ピノキオ保育園

A-1 保育内容

A-1- (1) 全体的な計画の作成	第三者評価結果
<p>A-1-(1)-①</p> <p>【A1】 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。</p>	a
<p><コメント></p> <p>【法人の方針が浸透しており、全体計画にも落とし込みがなされている】 法人の方針をもとに全体計画が立案されている。安心して過ごせるようにという養護の基本的な部分に関して丁寧な配慮の姿勢が伺える。現在は園長が作成しているとのことだが、保育者に自分ごと化できるように取り組みがなされた方が尚良いという点は自覚されていたので、今後よりよい改善に期待したい。ただ、その計画も立っているようで、保育者の参画が強化されていくことも話し合われており、とても前向きな姿勢が評価される。</p>	
A-1- (2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開	第三者評価結果
<p>A-1-(2)-①</p> <p>【A2】 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。</p>	a
<p><コメント></p> <p>【今年の目標にもなっていることもあり環境のアップデートが進んでいる】 今年の目標として人的・物的ともに環境の見直しの取り組みがある。配置を何度か調整しながらどうすれば子どもたちが落ち着いて安心して過ごせるかについて考慮された環境設定があった。例えば、保育者からは目線が届くが子どもにとっては低めの棚やゲートで囲われているほっとする場所、それからリラックスするための場所など、集団生活や活動で疲れてゆっくりしたい気持ちの保障ができていた点良かった。</p>	
<p>A-1-(2)-②</p> <p>【A3】 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。</p>	a
<p><コメント></p> <p>【保育者が子どもの個性を把握しており、大切にしようとする想いが伝わる現場となっている】 園庭で遊んでいた子どもたちはリラックスして自分が遊びたいものを選んでおり、子どもの意思を尊重することが当たり前のように根付いていた。保育者が子どもたちにかける言葉はとても前向きで、積極的に子どもたちに温かい目を向け続ける姿があった。子ども一人ひとりを受け入れる気持ちが全面に出ているからこそちょっとした事に保育者が声をかけており、子ども自身が必要とした場合に対応することで、自分で解決できる姿も更に保障されやすい。</p>	
<p>A-1-(2)-③</p> <p>【A4】 子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。</p>	a
<p><コメント></p> <p>【子どもの発達の違いを尊重しながらも、丁寧な環境設定と関わりにより援助がなされている】 お支度のゾーンに意図があり、手助けが必要な子どもの場所は手前に、自律してきている子どもたちの場所は奥に設置されている。援助をしようとするからこそ、意図のある細やかな環境設定になっている。全てそうであるが、一度やってみることが大切で、もしもつと良い方法が見つかったらまたその時に変えていこうという柔軟かつスピード感ある仕事ぶりが、保育の質向上にとっても良い成果をもたらしている。今の環境もまた更に良くなるのだろうと感じる。</p>	
<p>A-1-(2)-④</p> <p>【A5】 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。</p>	b
<p><コメント></p> <p>【選択肢のある環境づくりがなされている】 主体的であるためには、子どもが自らの意思で行動できる環境設定が必要であるが、遊びの環境には複数のゾーンが設定され、それらは子どもたちが遊びたいと思えるように今の興味関心に合わせた内容になっており、工夫のある保育室だった。保育園の運営には予算管理は当然のことだが、限られた条件の中でもできることとして、ゾーンに自然物や廃材でのSTEM遊びの仕掛けを作り提案したり、アートやクリエイティブの自由さを保障できる環境が強化されると更に良いのではないだろうか。</p>	
<p>A-1-(2)-⑤</p> <p>【A6】 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
<p><コメント></p> <p>【子どもの関わりが徐々に発展していくために設計された取り組みがなされている】 入園後は、エリアを分け丁寧に関わることで安心できる環境となっている。しかし0歳から集団での刺激を受けられるよう異年齢と関わる機会を徐々に増やしていた。年上の子から面倒を見てもらったり真似して遊んだりするだけでなく、少し待つことや自分がやって欲しいことと違うことでも適応してみたりする経験が、大事な力を育むことにつながるということが意識されていた。障壁を取り除きすぎたり、嫌なことが起こらないようにするばかりを目標としない姿勢があった。困った時はいつでも気持ちに寄り添っており、強くなしやかな心が育ちやすいのではないかと。</p>	

<p>A-1-(2)-⑥ 【A7】 3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

【発達段階と共に子どもの意欲も尊重されることで養護と教育のバランスが取れている】
この時期の発達それぞれあることを認識し、発達に応じた個別最適化を図ろうとする取り組みが見られた。生活習慣など身につけて欲しいことはあるが、いつのタイミングで子どもが自らやろうと思えるのかを汲み取ろうとする意識、そして保護者の想いも受け止めつつ最後は子どものためにどうするのが最も良いのかを見つけていく保育の姿勢があり、受け止めることと力を伸ばしていくことのバランスが取れている。

<p>A-1-(2)-⑦ 【A8】 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>

【子どもを1人の人として尊重しようと努める保育者の姿勢から主体性が育まれている】
子どもたちが興味を持ったことが出てきたとき、次に何をしたいか保育者と子どもが対等に話し合い活動を決めていくことで、発展性のある活動ができています。子どもたちがやりたい事だからこそ意欲が溢れ、主体性や探究心が育まれやすい。保育者が計画にとらわれ過ぎず、時には変更しながら子どもの姿を受け止めて柔軟に活動を進めている。また、習熟度の違いに対応できる複数の選択肢が活動にも用意されている。安心して楽しい毎日の中で非認知能力が伸びていけるような保育環境を実現することができている。

<p>A-1-(2)-⑧ 【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
---	---

<コメント>

【安全に配慮しながら集団の中で経験することを大切にだけでなく、関係機関との連携をとり様々な支援を行っている】
保育者の目が行き届くよう加配したり施設やゲートなどの安全な環境への考慮をした上で、基本的に個別に行動することなく集団の中で様々な経験をしながら成長できるような取り組み方をしている。個別対応が必要な時は、集団から離れてケアする等、保育者が専門知識に基づいて適切な関わりをしている。また、知識やスキルを深められるような研修や、療育センターとの連携など、子どもへのサポートの質を上げていく努力の姿勢があることが良かった。

<p>A-1-(2)-⑨ 【A10】 それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。</p>	a
--	---

<コメント>

【建物の構造と保育室のデザインにより、多様な子どもの気持ちや状態に応える環境づくりがなされている】
ゾーンには、動と静の配慮がなされ、静の中でも静かな遊びと、遊びでなくリラックスしてゆっくり過ごせる場があることで、休みたい子どもは無理に遊び続けることなく過ごせる。週末に近くなったり疲れやすい子どもは、お昼寝以外にも自分のペースで活動したいこともあることが理解されている。延長保育は異年齢がより強化されやすいこと、家庭で過ごす時間を補完するようなゆったりとした雰囲気づくりをすることから、メリハリのある継続してもストレスや疲れになりにくい保育環境となっている。

<p>A-1-(2)-⑩ 【A11】 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。</p>	b
--	---

<コメント>

【制限のある状況から精一杯の対応をしようとする姿勢に価値がある】
どの園でも必要性を感じながらどう実現したら良いのかを試行錯誤したのがコロナの流行期であり、本園も例外ではない。今年度からコロナも落ち着き、学校との連携促進を目指しており、これから更に強化したいとすることで取り組みは活性化していくであろう。授業参観、卒園児の来園、学校の先生をしている保護者との交流などの具体的な内容からも、コロナ流行期でもできるならばやっていたであろう意思が見えたので、その点は評価したい。

<p>A-1-(3) 健康管理</p>	<p>第三者評価結果</p>
---------------------	----------------

<p>【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。</p>	a
---	---

<コメント>

【子どもをよく観察し、報告のスピードも早く、園全体で子どもをサポートしていく姿勢がある】
登園時の触診、連絡帳の確認等が習慣化されることで見落としや不安定な体制が構築されている。健康状態の変化や怪我等が発生した場合、担当保育者から適切な報告が即座に上がる状態になっているのは日頃から連携がしやすいチーム構築がされている成果でもある。また、園内の連携だけでなく保護者へも速やかな連絡がなされており、何事にも丁寧なコミュニケーションがなされている様子が窺えた。

<p>【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。</p>	a
--	---

<コメント>

【健康管理において、リスクを捉える重要性の自覚と対応方法の構築がなされている】
特に配慮が必要な症状を持つ子どもは、必ず囁託医に見てもらおうような対応になっている。看護師との連携も細やかに行われており、もちろん何も起こらないことが望まれるが、何かあった場合の対処が速やかに行われるよう、日頃よりリスク管理の意識を持って取り組みがなされている。湿度気温の管理方法や、対処対処方法などのアドバイスを受けたらすぐ現場で実施できるようなスピード感あるアップデートができるのも本園の特徴である。

A-1-(3)-③ 【A14】 アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
---	---

<コメント>

【指示書に基づき確実に事故を防ぐための業務フローが整っている】
現時点でアレルギー児はいないとのこと。4月時点では該当児がいたが現在はクリアしている。対象児がいる時は、健康管理委員会にかけ、指示書に基づいて対応を進める等の業務フローは構築されている。更に日々の保育業務の中でも配膳の対応など全ての面において、人的エラーが起こらないような対策が取られていることで事故リスクを徹底して減らしている。ただし業務フローをこなすだけでは細かいところで抜け漏れが発生しやすくなるため保育者はアレルギー対応を徹底しないと子どもの命のリスクに直結することを強く認識するよう心がけていた。

A-1-(4) 食事	第三者評価結果
【A15】 A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a

<コメント>

【誰かの作った正解を探すのではなく子どもたちの姿から色々なチャレンジをして向き合う姿勢が良い】
デザートから食べても、途中でおかわりしに来ても、そこが食の本質ではないので、子どもの食に対する意欲を大切に受け止めて対応するという点がとても良い。イベント食やテーマ食などにも積極的にチャレンジし、子どもたちに意味を伝えてできるだけ理解した上で食べることで美味しさが増すような取り組みにも尽力されており、食育にも力が入っていた。野菜を肉に混ぜ込む工夫や、味つけなどを作業せずに工夫し続けるスタッフさんの姿勢が子どもたちに伝わっていたようで、美味しくそこに食べる姿があった。

【A16】 A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	b
--	---

<コメント>

【子どもを案に管理せず、安全な環境設計を目指す意識を高く持っている】
今年度のはじめは離乳食対応が難しく、ヒヤリハットが多く発生していた。事故を防ぐために離乳食の席に名前をつけるなど随時対応をしてきて乗り切っている。ヒヤリハットは事故に繋がる前に防ぎ改善することが目的で、事故にならなかったのはいくつか設計されているフィルターのおかげに引っかけたからでもある。主体性を育む保育をされているので、子どもの意思を押さえつけずに、子どもを一斉管理しないように努めていることは安全とを取るのが難しい一面も出てくる。その両立を目指す姿勢に、保育者のプロ意識があるように思う。

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携	第三者評価結果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a

<コメント>

【家庭との連携面では、いつでも良好な関係にしておくための努力を惜しまない姿勢がある】
入園説明を丁寧に行っており、保育方針の理解と家庭との連携がうまくいくような初動と、入園後も連絡帳が写真付きであることや、保護者とコミュニケーションができる場を定期的にとることなどの仕組みが整っている。その上で保護者に寄り添い子どもの悩みだけでなく保護者本人の悩みも時折聞いて共感したり相談に乗ったり、業務的にならない心の通った関わりにより、結果として子どもたちの良いことだけでなく話も理解してもらいやすい状況が生まれており、それが子どもの発達によりよい展開を生むことができる要素となっているのではないかと。

A-2-(2) 保護者等の支援	第三者評価結果
【A18】 A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a

<コメント>

【業務的対応でなく、心を通わせようとする姿勢が支援で大切なことだと理解されている】
保護者の相談事は、子どもの発達に留まらず生活全般に及ぶ。保育園側が問題解決ができることばかりではないが、話すことで心が軽くなったり保護者自身で整理できるケースがあり、それらは心を通わせて話を聞くことで状況が好転していくことを理解されていて素晴らしい。具体的に解決したいことについては、園長や副園長に共有し、直接対応することで解決をサポートする姿勢もある。

【A19】 A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a
---	---

<コメント>

【虐待等の権利侵害を業務的なこととして捉えずに、子どもや保護者に寄り添う良い姿勢がある】
早期発見を可能にすべく、子どもたちの様子を日頃からよく観察するような取り組みがなされている。気になることがあれば園長副園長や看護師と速やかに連携する意識も高く、実際にも連携がスムーズに行われていた。例え虐待の疑いとなった場合でも、保護者を批判的に見ることなく、可能性を踏まえつつも丁寧にコミュニケーションし相談の体制や保護者の心に寄り添う対応を初動としているその姿勢が共有認識になっていることは、保育園のあり方として素晴らしい。

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）	第三者評価結果
【A20】 A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a

<コメント>

【園として、職員個々が日々自身の振り返りをする文化が根付いている】

法人独自の仕組みが丁寧に構築されており、それに基づき保育者の意識やスキルの向上ができていた。全体方針に則り仕事として学びや自己評価に取り組んでいる中でマインドが整い、ルールだからでなく自らの意思で振り返る必要性を感じて努力したり、悩んだり考えたりすることができる保育者に育っている様子が窺えた。仕組みが強すぎると受け身の作業になる可能性があるかと思ったが、園長や副園長の心ある保育者への関わり方や、ミーティングの雰囲気づくりが保育者の心に届いて良いマインドを持つチームになっているのではないか。